

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
24	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
<b>題名 (原題/訳)</b>	
Alcohol Use Trajectories in Two Cohorts of U.S. Women Aged 50 to 65 at Baseline. 50歳と65歳時点におけるアメリカ人女性の飲酒について 2つのコホート調査より	
<b>執筆者</b>	
Bobo JK, Greek AA, Klepinger DH, Herting JR.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Am Geriatr Soc. 2010 Dec;58(12):2375-80.	
<b>キーワード</b>	
アルコール、女性、軌跡、高齢者	
<b>要旨</b>	
<b>目的:</b> 2つの前向き調査によって8~10年を追跡した高齢女性の飲酒経歴を調査することを目的とし実施した。	
<b>研究デザイン:</b> 国を代表する2つの前向き調査を使用してベースラインの重み付けと調整を実施した。	
<b>設定:</b> 研究データは詳細なインタビュー(家もしくは電話で実施)を用いて入手された。	
<b>対象者:</b> ひとつのコホートは1996年、健康でHRS(Health and Retirement Study)に参加していた50~65歳の女性5,231名、その他、1995年に50~65歳のNLS(National Longitudinal Survey)の対象者1,658名であった。	
<b>方法:</b> 双方のコホートでは最近の飲酒と週あたりの平均飲酒機会を似たような質問を用いるものの、同一の質問は使用せずに調査した。HRSの女性は1996~2006年にかけて6つのインタビューを、またNLSの女性は1995~2003年にかけて5つのインタビューを終えた。	
<b>結果:</b> すべての経歴は類似した結果となった。HRSの女性に関しては、1日当たりの飲酒が減少している者4.9%、まれかもしくは非飲酒者61.8%、量が変わらない飲酒者25.9%、そして増量している者は7.4%であった。対応したNLSの結果でもそれぞれ8.8%、61.4%、21.2%、8.6%、という結果であった。2006年、HRSで1日あたりの飲酒平均回数は増加している飲酒者と量が変わらない飲酒者の経歴は1.31と1.59であった。2003年、NLSの女性においてはそれぞれ0.99と1.38という結果であった。	
<b>まとめ:</b> ほとんどの女性は50歳以降の飲酒行動については大きな変化はなかった。しかし、実質的には増えている者もいる。これらの結果は高齢の女性において定期的に飲酒についての評価や指導、アルコール関連の問題へのリスクの低減などは必要であるということを確認する。	